

第4回

立川市長期総合計画審議会

令和6年1月22日

立川市総合政策部企画政策課

第4回立川市長期総合計画審議会会議録

開催日時 令和6年1月22日（月曜日） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所 立川市役所 209会議室

出席者 [委員] 朝日ちさと（会長）、松浦司（副会長）、片岡滋、甲野毅、小林優貴、
篠原俊博、田所佳洋、辻本愛子、長井琢英、西内絵梨子、平澤豊、福
永毅、宮本直樹、森林育代、大塚正也（敬称略）

[事務局] 渡貫泰央（企画政策課長）、矢島和晴（企画政策課連携推進係長）、
齋藤安則（企画政策課基地対策係長）、夏目互（企画政策課主査）、
中野利佳（企画政策課）

(朝日会長)

それでは時間になりましたので、第4回立川市長期総合計画審議会を開会いたします。本日も、皆さんお忙しいところ、遅い時間にお集まりいただきましてありがとうございます。

本日の次第は、お手元にありますように、報告事項1件と審議事項2件を予定しております。それでは、よろしくお願いいたします。

まずは、早速報告事項1に入りたいと思いますが、審議会のこれまでの振り返りということで、報告事項ということで、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こんばんは。まず、報告事項に入る前に、配付資料のほうを確認させていただきます。

資料1から資料9というような形で、本日当日配付では、5、8、9をさせていただきます。こちらのほうは、過不足ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

そして、今回参考資料といたしまして、市民ワークショップの報告書も配付させていただきました。

また、事前にメールで確認いただいている議事録、資料6から9でございますが、辻本委員からありましたけれども、ほかの委員さんからは御意見がなかったようですけれども、なければここで確定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。それでは、第2回、第3回の議事録のほうは確定させていただきたいと思っております。

議事

1 審議会のこれまでの振り返り

(渡貫企画政策課長)

それでは、先ほどありました審議会のこれまでの振り返りでございます。資料1のほうを御覧ください。

改めまして1番、本審議会の到達点を再度確認させていただきます。こちらにつきましては、基本構想について、本審議会からは答申するとしてございまして、基本構想の中身といたしましては、将来像、都市像、政策の方向性となっております。

将来像につきましては、ポイントとなる考えやキーワード、また都市像については、都市像の文言を答申いただくこと、あとは政策の方向性については、各政策分野の方向性ということになってございます。

これまで都市像の設定の方法といたしましては、左にあるように、将来像を設定した後に、その具体像である都市像の手段といたしまして、政策、施策というふうに階段状になってございますが、これらにつきましては、10年先の将来像から都市像を導く方法と、政策、施策分野の課題から都市像を導くと、2つの方法がありますが、これまで両方の視点から、当審議会では御議論いただきました。裏面を御覧ください。

第1回では、立川市の状況（人口/財政/社会指標）について、御説明して御意見をいただいた後、第2回では市民ワークショップの将来像につきまして、意見聴取をしていただきました。

それを踏まえまして、前回、第3回では左、市民ワークショップの将来像・都市像から次の10年を生かす視点ということで、審議会から御意見をいただきました。

また右のほうで、第4次長期総合計画（政策・施策）の課題から、次の10年、生かすべき課題（政策分野・施策分野）ということで、幾つかまた御意見をいただいたところでございます。こちらにつきましては、後ほどまとめたものがございますので、それをもとに再度御議論いただきたいと思っています。

この第3回までの御議論を踏まえて、今回第4回におきましては、もう少し大きな視点のところ、今後の10年間のまちづくりの大きな方向性ということで、（1）まちづくりの方向性についてと。（2）政策分野から見た都市像を生かす視点ということで、こちらにつきましては前回の御議論をさらに補足する形で、今回はお願いしたいと思っています。

第4回も御議論を踏まえて、第5回では、将来像のエッセンスと具体的な都市像案ということをお示しして、事務局案とお示しして、そちらについて御議論をお願いして、第6回答申案というような流れとして考えているところでございます。

これまでの振り返りについての説明は以上となります。

続きまして、前回までに、ちょっと御質問があったことについて、補足資料ということで、資料の4を少しお出しいたします。前回、立川市の不登校の現状ということで、資料の御請求がございましたので、こちらのほうをお出ししてございます。

1 不登校児の生徒の現状についてということで、立川と国、東京都との現状の差、あと生徒数の推移、学年別、不登校の要因ということで、今回は所管部より資料提供を受けているところでございます。

続きまして、資料5でございます。今回、資料5を追加させていただいてございます。コンプライアンスの取組についてといったものでございます。

今回、当審議会に当たりましては、市長から特にこの辺の立川市の現状といたしまして、後ほどの政策の分野で御意見をいただきたいというようなこともございましたので、立川市の現状として少し資料としてお出ししてございます。

今回、市では結構事務ミスが頻発する状況に陥ったり、昨年末には、本市職員から公金着服で懲戒処分等があったというような事案もありまして、この辺りも後ほど御意見を賜りたいということで、コンプライアンスの取組について、資料5としてお出ししているところでございます。

一旦は、資料1、資料4、資料5の概要につきましてはの説明は以上となります。

（朝日会長）

ありがとうございました。

それでは、報告事項ということで、次の次第2のほうに移りたいと思います。

ただいま御説明いただいた資料1、資料4、5、いずれも次の議題にも関連してくるところになりますので、議題の中で確認などございましたら、いただければと思います。

2 まちづくりの方向性について

（朝日会長）

それでは、次第2の審議事項2件になりますけれども、まず（1）のまちづくりの方向性について、事務局から御説明をお願いいたします。

（渡貫企画政策課長）

こちら、資料2、まちづくりの方向性です。本日の審議事項の1つ目になります。こちらにつきましては、今後10年間のまちづくりを考える上で、基本的な論点について、大き

く3点、御議論をお願いしたいと思っております。

その議論に行く前に、まずは【1】現状から推測される10年後の概況ということ、改めて整理してございます。1つ目の総人口につきましては、現在とほぼ10年後も、1,000人程度減りますが、ほぼ変わらないという状況が続きます。

ただし一方で、その中身を見てもみますと、生産年齢人口、いわゆる15から64歳の人口は約4,500人程度減少するとともに、年少人口もいわゆる15歳未満の人口も2,000人程度減少してくると。一方で、65歳の高齢者は、5,500人程度増加していくということで、少子高齢化ということが、さらに進展していくというような10年後が見込まれてございます。

それに伴いまして、人口減少による税収の減少、及び高齢化に伴う保障関係経費の増加や、施設再編による投資的経費の増加などによって、財政状況が厳しくなることも見込まれています。

さらに、日常生活ではデジタル化、生成AIがさらに浸透していつているのではないかと、あとは2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組が加速していつているのではないかと、あとは地域の担い手がさらに減っていつているのではないかと、そういったことが推測されるといったところでございます。

こちらについては、さらに皆様の御意見、どういった状況があるのかというのは、またいただいてもよろしいかなと思っております。

そういった概況を踏まえまして、【2】次の10年間のまちづくりの方向性ということで、大きく3点ですね。まず、そういった概況が想定される中で、①市の基幹的な市民サービスの方向性はどいった方向性が考えられるのかといったことを、まず最初に御意見をいただきたいと思っております。

基幹的なサービス、いわゆる基礎自治体がどこの自治体でも行うべきこの福祉であったり、子育てであったり、環境であったりとか、そういったどこの自治体でも行うサービス、その方向性について、まず御意見をいただきたいと思えます。

その上で、②本市の特徴をどのように生かしていくか、またどのような価値を新たに作り出していくかといったところについて、御意見いただけたらと思っております。

こちらは、自治体ごとによって特徴が異なっておりますので、本市の特徴、いわゆる昼間人口が多いとか、交通結節点であるとか、産業、農業というような視点から、どのように生かしていくかといったことについて、さらに御意見を賜りたいと思っております。

③はちょっと難しいんですが、ではじゃあ実際にまちづくりを行っていく上での理念、いわゆる考え方はどいったものを重視、今後10年間していくべきなのかといったことを、また御議論いただきたいと思っております。こういった理念が、様々のサービスの根底になるというようなことも考え方としてありますが、その辺の内容につきましても、御意見を賜りたいと思っております。

資料2の【2】①から③を、まず今御説明したとおりの内容で御意見を賜ればと思っております。

説明は以上となります。

(朝日会長)

ありがとうございました。

今御説明いただきました資料2【2】次の10年間のまちづくりの方向性については、これまでの様々な情報・議論をまとめていただいたということで、それが将来像につながる

ということでした。

今、御説明ありました10年後に予測される立川市の状況を踏まえまして、次の10年間に
ついて、①から③について御意見をいただき、可能な限り審議会としての意見としてまと
めていきたいということになりますので、①、②、③の順で皆様から御意見をいただきた
いと思っています。

今日は、その①から、座席順に皆様に御発言いただくという方式をお願いをしたいと思
っております。

それでは、田所委員からお願いをいたします。

まず、①の基幹的な市民サービスの方向性ということで、どこの自治体でもやるべきこ
とというような御説明があったんですけども、そこに関して御意見をお願いできればと
思います。

(田所委員)

田所でございます。【2】の①の前に、【1】現状から推測される10年後の概況のところ
で地域の担い手がさらに減っている。と書いてあるんですが、地域の担い手というところ
をどうイメージすればいいのかが、ほかのところは具体的な項目と中身によって大体分か
るつもりなんですけど、地域の例えば生産年齢人口みたいなことを言っているのか、地域を
担うということについて、幅広く言えばいっぱい出てきそうだし、どんなイメージとい
う感じで言われているのかなというところを先に教えて頂いてよろしいでしょうか。

(朝日会長)

ありがとうございます。

事務局より、ここの担い手に関しての御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

これまでの少し議論でも、市民ワークショップでも出ていたかと思うんですけども、
かなり自治会とかそういうことも大きくイメージしています。自治会の中でも、どんど
高齢者のほうの役員さんというような形で、そういった中で次の担い手や役割、役員を担
う方がいっしょらなくなってきた、そういったことも少し今非常に問題となってきた
と。

例えば地区の学習等共用施設を運営している団体なんかも、そこを運営する人がなかな
かどんどん高齢化によって、次をやる方がいなくなってきたといったような状況であ
ったり。あとは、また産業の分野も、あと農業の分野も非常に高齢化が進んできてしまっ
て、次の担い手、やる方が、農業をやる方、あと自営業だったら自営業をやる、継いで
いただく方ということが非常に少なくなってきたということが、お声として現状いただ
いているようなところもございますので、そういったことがさらに高齢化で加速してい
くのではないかとということでの表現としてございます。

以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございました。

田所委員、よろしいでしょうか。

(田所委員)

はい。

(朝日会長)

それでは、御意見がありましたらよろしく願いいたします。

(田所委員)

市民サービスって、生活する上でいろいろ受けてほしい部分だと思いますが、基本的には住民が安全、安心で暮らせるためにどういうことができるかというところなんですけれども、その全体の方向性というのは、そんなにもぶれる部分ではないのかなと。それをどうやって、これから10年の間で、さっき言った10年後の現状として推測される部分だけじゃなくて、意識のところも少しずつ変わってきているんだと思うんです。

例えば、前回も言いましたけれども、学校へ行く、行かないのところが、いろんな学校の種類があって、単に数字上で不登校だ何だかとかじゃなくて、いろんな性格があってもいいんじゃないみたいな話で。

仕事とか中身の関係についても、今のあり方で、在宅も多くなってきましたけれども、これから10年ぐらいって、一番そういう意味で、昔思っていたイメージの社会とか何かが変わってくるような気がするんですね、ITの問題だけじゃなくて。そんなことを言ったときに、多様な部分についてどう全体として受けられるかみたいところを、1つ持っておく必要があるのかなというのが、とりあえず私の意見ですね。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

平澤でございます。まず、①基幹的な市民サービスの方向性としては、ここに挙げられているのほぼ充足されているのかなと思いますけれども、今までの市民ワークショップですとかアンケートとかを見ていると、ほかに文化とかスポーツがここに入ってもいいかなとは思っています。

あと感染症対策については、市民サービスの方向性って、一貫してずっとということじゃなくて、都度の対応になるのかなというふうに感じています。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは福永委員、よろしく願いいたします。

(福永委員)

福永です。

①基幹的な市民サービスの方向性ということですが、これ、一貫して思うのは、ここに分野の違うものがいろいろ、福祉から道路、下水、感染対策まで出ているんですけれども、これ③でまた話になるんでしょうけれども、例えば福祉、子育てとかという場面においては、全て連携とか協働の話につながっていくのではないかなというのは、前回もちよっとお話ししていると思うんですけれども。

特に言葉として地域という、先ほど田所委員のほうからもお話がありましたけれども、地域ってどういう定義を行政のほうでまずされているのかなというのが、よくわからない。地域って幅広ですよということも、田所委員のほうからも話があったと思いますけれども、私、いわゆる青少年の育成に関わっている立場からいくと、学校という場があって、そこから、じゃあ学校の周辺、周りが全て地域なのか、あとはその中にまた家庭があるとい

う、そういう3者で協働するというのは、もう昔から言われていることではあるんですけども、そういう連携の仕方とかが全て、ここで言われている方向性のほとんどをカバーして、その連携、連動というのがうまくいく、そこには行政側のインフォメーションであり、行政も含めたその3者でのコミュニケーションがどのように取れていくのか。

今、立川で非常に思うのは、アナウンスが、アナウンスの仕方がちょっと残念かなというのがあるんです。非常にいい施策、方向性も持って動いているんですけども、ごくごく一部の人しか理解していない。子どもに関わるところの話をしますけれども、子育てと青少年育成という、これ完全に1つの関連性を持って動いていることではあるので、そこを何か結びつけるような動きというのが、その場面場面ではすばらしくやって、すばらしいアシスト等もやっていただいているんですけども、全体的な流れを考えた場合に、その情報を提供し、かつ、どことどこがどういうふうな連動を取っていくかということを、我々に提案しているつもりでも、なかなかそれが実際の行政上の動きには反映しないのかなというところも思っています。

ですから、まとめますと、連携、連動というところが、非常に重要なのではないのかなと思います。ごめんなさい、環境、道路、下水というのはちょっと分かりません。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは大塚委員、お願いいたします。

(大塚委員)

大塚でございます。

行政の立場というところでどうしてもなってしまうんですけども、先ほど、前提条件というところで、10年後の概況というところで、ほぼ人口は変わらない、ただ人口構成は変わってくるんですけども、人口については変わってこないというところで。そうすると、基幹的なサービスについては、ある程度、現在の水準は維持していかなければならないというふうな考えになってくるかと思えます。

ただ、人口は変わらないんですけども、その構成が変わってきますので、よりやはり子育て、そういったところの施策には力を入れつつ、皆さんに、この立川を選んで住み続けていただきたいというような施策は、打っていかねばいけなんでしょうし、また高齢者の方々が増えてきますので、やはり健康で生き生きと暮らしていくために、暮らしていただけるための施策、そういったものを打っていかねばいけなんでしょう。

そういった方向性を、今後やはり10年間を持っていくということで。やはり人口、これから最終的には減っていくということはあるのかもしれないんですけども、やはりそのマイナスのイメージではなくて、現在のこの水準を維持しながら生き生きと暮らせるような、そういった方向性であればいいのかなとは思っています。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

続きまして長井委員、よろしくお願いいたします。

(長井委員)

長井でございます。よろしく申し上げます。

市民サービスの面で、とりあえずまずインフラの話が、ここにもかなり道路、下水道と

いうのが出ているんですけれども、例えばもっと集約してものを建てていく必要があるのかなど。税収は、とりあえず人口がそれほど減らないのであれば、税収という面ではそれほど大きくは下振れしないのかなという感じがありますので。ただ、新規でもものを建てればいいというのは、確かに反対にはあるんですけれども、ただ集約してワンストップでものできるような行政サービスというのは、今後も必要だと思っております。

ただ現実的には、じゃあ集約すればいいのかということではなくて、今回高松町にあります健康会館が、南口のほうに錦町のほうに移転してしまうわけなんですけれども、例えばそうすると、今度南寄りの建物がありますので、例えばそういうものも当然砂川地区ですとか、そういうところにも皆さん住んでいらっしゃるわけですので、そういうところにも何か別の形態で取ればいいのかということ。

集約はしていつてもらいたいなとは思いますが、どんどん減らしていけばいいということではなくて、ある程度まとまって、そこで全てが賄えるような行政施設というのが欲しいなとは、持っていく方向があったほうがいいのかとは思っています。

全体的には減らしていただいている方向だとは思いますが、この間ちょっと三小の建て替えの説明会のほうにも参加させていただいたんですけれども、三小のほうも、その前に二小がちょっとまだ現状不調な状態ですので、建築費が今高騰していますので、今後も下がるという方向性はないと思っています。そういうところもちゃんと行政の方で精査していただいて、必要なものとそうでないものを、しっかり分けていただければありがたいかなと思います。

あと、感染症対策などは、先ほど別の委員の方がおっしゃっていましたが、その都度の対応かと思いますが、三小の建て替えのときにもちょっと言わせていただいたんですけれども、体育館のほうで、今後例えば関東においても大きな災害というのは、予想がもう何十年も前からされていますので、そういう際にじゃあ体育館に逃げればいいのかという問題があると思うので、そういうものは少し盛り込んでいただければ、少し使い勝手のいい、避難所から考えるのはどうかと言われますけれども、そういうものも既に平時のときから少し考えておいていただいて、いざというときに慌てないようにしていただければいいかなという、そういうものは少し事前に考えていただけたらありがたいと思います。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは西内委員、お願いいたします。

(西内委員)

西内です。私は、大塚委員と大体ほとんど一緒の意見なんですけれども、今の現状のサービス水準は維持したまま、無駄なサービスや支出を削減することをスタートとして、立川市が増税しないということで、人口が増加するのではないかと期待しています。そのまま、今の市民サービスを維持していただければなと思っております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは、続いて宮本委員、よろしくをお願いいたします。

(宮本委員)

宮本です。

まず、結論から申しますと、私は市民との協働で、サービスを充実していくという観点で行っていきべきだと思っております。言い方を変えると、市民力の活躍でとか、市民主役のまちづくりとかいうことで、ぜひ担い手の中に市民力というものを取り入れていくべきだろうと思っています。

財政状況が厳しくなる、そして積極的な展開での税収増というのも樂觀できない、人口減少は引き続き起きてくる。しかし、年代構成が変わって、アクティブシニアは増えてくるのではないかと考えますから、このところを中心に、アクティブシニアだけじゃないという、ぜひ市民にも、市民が市民を支えるといいますか、市民の市民による市民のための地域展開を考えてもらいたいと思います。

私がここで言っている市民というのは、住民票を持っているその在住市民だけではなく、立川の特性的話にも関連してきてしまうんですけども、在勤市民や在学市民というようなことも期待できる。さらに企業市民もいます。これは立川は大変強い、企業市民という民間企業の力というものを大いに取り入れる発想で臨むべきだろうと思っています。

そのための行政施策としては、支援者支援、地域を担っていく支援者を支援していく行政というのが大切だと思いますし、そうした市民人材をサポートしていく施策、また市民性学習、シチズンシップ・エデュケーションなどの機会を提供していくとか、今子どもたちには行っていますけれども主権者教育の徹底、そうしたもので地域を担っていくんだという意識を醸成していくということが、将来的に大変重要なのではないかと考えています。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは森林委員、よろしく願いいたします。

(森林委員)

次の10年間。とにかく立川を魅力のあるまちにして、税収を上げていくという方向に行ってほしいなと思います。

日本全体の課題として、人口減少というのは避けられないし、いかにそのコンパクトシティで、みんながしっかりと暮らしを支えていけるかというのは、やっぱり税収だったり、その稼ぐ力だと思うんです、まちの。なので、いかにまちの稼ぐ力をつくっていくかといったところを主眼に持っていけば、税収もアップするし、市民サービスも下がらないのではないのかなとは考えています。

「立川って」というふうに言われるのではなくて、「立川に住んでいるの、いいな」と言われるような、発展的でおしゃれで、みんなに興味を持って、羨ましい、立川に住んでいるのは羨ましいというような、まちになっていくといいのかなと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは、続いて片岡委員、よろしく願いします。

(片岡委員)

片岡です。

私は医療系なので、高齢者の増加がかなり進むと思うんですけども、高齢者の健康対

策をどうするかということになるんですけども、健康寿命の延伸に向けた予防、医療の充実は必要だと思います。

国民健康保険の事業でデータヘルス計画というのがあるんですけども、健康医療の情報データの行政のほうにあると思うんですよね。その方の健康づくり、病気の重症化予防を計画に基づいてやっていく、生活習慣病の対策が中心となると思うんですけども、それがもっと必要になってくると思うんですよね。

それと、あと高齢者で、やっぱり寝たきりになったりした場合の訪問診療が、もっと必要になってくると思います。亡くなる方もすごく多くなると思うので、看取りの意味とか、そういうのも今よりは必要になってくると思うんです。病院とか施設、老人ホーム、限りがありますから、そういう人数、急には入れないので、そういうものの対策も必要になってくると思います。

あと歯科医師的には、ライフステージにおいた食育とか、そういうものが、食育というのは子どもの頃に必要ですけども、歯と口の健康に関する普及啓発、さっきも言ったような健康寿命の延伸に結びつけるような形にしていかなきゃいけないと思います。

あと感染症対策については、急な感染症の場合は行政と病院と医師会、保健所、情報共有して連携していくしかないと思います。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは甲野委員、続いてお願いいたします。

(甲野委員)

甲野です、よろしく申し上げます。

まず最初に、市民とは何ぞやということだと思います。宮本委員もおっしゃっていましたが、少なくとも市に住む人が市民でないはずですよ。課題に対して自ら考えて主体的に行動するのが市民であって、ただただ受動的にサービスを受けるのが市民ではないはずなんです。

市民というのは何ぞやと、定義した上でどうなのかというのを考えたほうがいいかと思っています。

例えば最後のところですね、人口減少を受け入れ、市の存続のために現在のサービス水準を下げるべきっていうと、完全にこれ行政があって市民があるという対等の関係ではなくて、あくまでも受け手の市民ですよ。これじゃあ多分、今後税収を上げることは当然なんですけれども、市民サービスを維持するためには税収増というのは、なかなか難しいということを見ると、やっぱり市民と行政と企業も含めて協働していく必要があると思うんです。

宮本委員のお言葉はありましたが、やはりそれをしていかないと、市としては市の存続というのは立ち行かないんじゃないかなと思われま。

ですから、まず市民とは何ぞやということ、もう一回確かめた上で、こういった方向性というのを決めたほうがいいのではないかなと考えます。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは篠原委員、よろしくお願いいたします。

(篠原委員)

篠原です。①の例文を見ますと、どうしても元役人としては、総務省が六、七年前に出した自治体戦略2040構想を思い出してしまいます。

これは人口減少が2040年のときには、今よりも急激に下がっているという中で、どうやって市民サービスを低下させないようにすべきかというところの提言をまとめたものでございまして、極端な話、公務員の方が半分になっても、サービスを維持していくにはどうしたらいいかという、こういう問題意識を持っていたわけです。

そのためには、スマート自治体になるべきであるということで、AIの活用、それからRPAの活用、ロボティクスの活用、プラス自治体が今ばらばらにつくられている各基幹系システムの標準化をすることによって、そのシステムの改修にかかってくる費用の大幅削減を図る。これが、今の方向性になっているということでございますので、私としてはそれをぜひ進めていただきたいなと思いますけれども。

ただ一方で、自治体の皆様の声を聞いていますと、結構そういうところに職員の皆様自身がこだわっていらっしゃる。例えば、非常に単純業務とか、こういう何か手を動かす業務というのは、それが何かやっている気になるというところがあつてですね。何かそこから、それはもうロボティクスでいいんだよといったときに、いや、そこは私がやるところだからというところで、どうしても抵抗があるみたいな話もお聞きします。

実は、結構福祉にしても、子育てにしても、企画をすとか立案するって、結構苦しい仕事なので、何をすればいいかわからないといったこともあつたりしますので、実は職員教育という意味でも、研修という意味でも、どういうふうにすれば、市のこういった各種の市民サービスがよくなっていくのかという、そういう職員に対する動機づけ、意識づけ、キャリアプランも含めて、そういうところまで目配せをしていく。つまり、この市民サービスの方向性というところが、どうしても職員の皆様が担わなくちゃいけない部分なので、そこに対する職員の方のやる気をどう出すかというところにつながってくるのかなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございました。

じゃあ辻本委員、よろしく願いいたします。

(辻本委員)

私自身が、子どもの分野に携わってきたこともあって、今後の市の担い手となってくれる層を育成していくというような、そういう観点から子育て、教育に関する分野については、手厚いサービスがあつたらいいなと考えながら、皆さんの御意見を伺っていたんですが。

本日、不登校児童数の資料を出していただいたというところがありまして、こういったところも踏まえて、今後の基幹的な市民サービスの方向性というものを考えていけたらいいなと思います。

また、その皆さんの御意見の中で、いろいろお話の中で、宮本委員からお話があった市民の担い手としたサービスは何かと考えるべきだとか、そういう部分というのも、例えば子どもの居場所をつくっていくというような中で、言いにくい部分もあると思いますし、そういったことを後方支援として行政がサポートしていくような体制を整えていくというのも、重要な視点だなと思いました。

また、福永委員のほうからお話があった縦割りの行政のあり方というのは、やっぱりなかなか今もあるんじゃないかなという部分がありまして、横のつながり、部署間連携というものは、スマートに行政を運営していくという観点からも、必要になってくるんじゃないかなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは松浦委員、お願いいたします。

(松浦副会長)

人口学者から少し言わせていただくと、人口はあまり変わらないというお話なんですけれども、おそらく自然減、自然減というのは出生から死亡を引いたところですね、そこはやっぱり減っていくと。ただ、社会増ということで、流入が入って、それで多少相殺されるような形で、何とかキープしている、東京というのはそういった形になっているわけなんです。立川も、多分同じような状況だと思います。

ただ一方で、高齢化は進展しているという形で。若干厳しい話ではあるんですけども、財政的には厳しくなってくるのは間違いないとは思っています。そこでなるべく社会増という形で、立川は魅力がある地域という形で入ってきてくれると、社会増を目指すというのは1つの方法だとは思っています。

社会増を目指すにはバランスよくということも大事なんですけれども、1つ何かアピールしていくということが大事になってくるのかなと思います。

やはり高齢化は進展していくわけなんですけれども、高齢化が進展していくというところは必ずしもマイナスではなくて、高齢者の65歳の平均余命が長くなっていると。昔に比べたら65歳の方がより健康になっているということであって、昔の65歳と今の65歳を同じに考える必要はないわけであって、その地域の担い手として高齢者の人にもっと参加していただくとか。

そのためにも、健康寿命を延ばしていく、健康寿命を延ばしていくということは、高齢者の人が社会により参加する、しかも働いていただくこともできる、そして税収が上がっていくと。高齢者の人たちにも立川は魅力があり住みたいと思っていただく。

また、子育てに関してもやっぱり非常に重要であると。子育てを支援していくと、そこが社会増という形で、立川というのは子どもに対して手厚い。そういう形で、近隣の住民が立川に住みたいと思っていただく。育った子どもが、立川に住み続ける。もしインフラを維持したいのであれば、社会増ということを目指していく。そのためには、何かメリハリをつけるということで、子育てというのもあるし、健康寿命を延ばしていくことで、高齢者に対してもアピールできる。そういったことが大事なのかなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。様々貴重な御意見ありがとうございました。

本日は、10年後の将来の都市像、まちづくりの方向性を考えていくに当たっての要素とありますが、キーワードなどを出していこうというところもありますので、簡単に整理して、それで次に進めていきたいと思うんですけども。今、いただいた意見でありましたのは、ここに資料2のほうに書いてある分野を書きいただいているんですけども、ここにはないものとして文化、スポーツ、防災といったところも、基幹的サービスの中に入る

だろうということ。

多く意見をいただいたのは、今、松浦先生にもいただきましたけれども、基本的にはその基幹的サービスの水準というのは維持すべきであると。維持するに当たっては、当然ここにありますように、いろいろな資源が、人口、財政ですとかいろんな意味で資源が厳しくなっていて、元手が厳しくなっていく中での御意見をたくさんいただきました。

そこは、やはり連携、協働、それから市民、行政の協働という意味で、市民という概念の見直し、社会増も含めて、昼間人口、企業市民であったり、そういった市民の概念をもう少し広げていくことが必要であるということ、それがひいてはその税収なり、財政的なところにもつながってくる、ということがあったかと思えます。

それから、もう1つあったのは、効率的に行政職員というのが減っていくというところがあって、デジタル、システム、そういった技術のところをやっぱり取り入れていくんだらうと。それに当たっては、取り入れればいいというものではなくて、意識が変わっていくというところが必要でありました。

それから、これはいろいろところで言及があったかと思うんですけども、水準を維持する、しかもその分野を協働ということは、集約したりとか、分野横断的にやっていくということになると、目指すべき状態というのを共有しないといけないというような趣旨の御発言が、いっぱいあったかと思えます。

例えばその生き生き暮らせると、それをやった結果、生き生き暮らせるという言及もありましたし、それから魅力ある立川というふうに、魅力あるというような状態を、住民にとっても、在外者にとっても魅力ある状態というのがありましたし、あるいはその健康寿命という形ですね、それも分野横断的に目指すべきというところをやりますと。こういった基幹サービスの方向性を維持していくという基本に当たっての進め方についてのいろいろなアイデア、進め方の御意見があったかと思えます。目標しかり、市民の概念しかり、あったところですね。

今日御発言を全部記録していただいておりますので、ここで皆さんのほうで見ていただいて、次の議題のときにも生かしていただければと思いますし、最終的に事務局が反映していただくときには、自身の発言が反映されていないけれどもという心配をされずに、大丈夫かと思えます。

それでは、①はここで一旦終わらして、次に②に移っていきたいと思います。

ここも、趣旨は同じで、今後の10年を見据えたときに、立川市の特徴をどのように生かしていけばいいかと。今、皆様のほうからも、立川市の特徴を踏まえての御発言もありましたけれども、そこを深めていただければと思います。

ここも今日は、いろいろ欠けているところ、あるいは深めるところ、キーワードとしていろいろいただきたいので、また順番にという形式でお願いできればと思っています。

それでは、将来像で立川市ならではの特徴を表現するときに、この議論が多く参考になるという位置づけになります。

まず、②本市の特徴をどのように生かしていくか、またはどのような価値を新たにつくり出していくかというところですね。立川市の特徴として何があるのか、次の10年間を見据えたときに、その特徴を生かして、どんなことに取り組むべきなのかといった視点で、御意見をいただければと思います。

それでは田所委員、どうぞよろしくお願いたします。

(田所委員)

本市の特徴って言ったときに、みんなどう思うかという、今までの流れからいっても、2つあります。1つは、駅周辺を中心としたすごい基幹的な都市そのものという、開けている感じの部分と、もう1つ大切なことは、農家、そちらのほうの部分というのも大切な部分、その2つの要件があるのが、立川の特徴なのではないかと。そこを何かうまい表現でできたらと。

もう1つ、宮本委員が言っていた市民という概念。立川市って考えたときに、住んでいる人間だけじゃなくて、勤めている人も含めて市民として考えた方がいいのでは。やっぱりこれから先、特にみんなでといったときにいいだろうなと思ったものだから、今までの市民という感じだとちょっと物足りないから、どう言えばいいのかって、悩んでも今出てこないんですけども、市民という概念について、特徴的な形で何かつくればいいのかなど思っている次第です。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

河川敷が結構広いですよ、そこをうまく利用できるかなという気がしました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では福永委員、続いてよろしくお願いいたします。

(福永委員)

概略の話になりますけれども、先ほど市民力ということでお話が出て、私が今までいろんな活動をしている中では、地域力という言い方をしていたんですけども、市民力という、ああ、そうか、そういう幅広い考え方というものもあるのかと思うと、やり方も変わってくると。要は、立川市のほうで今後を考えていくとなれば、我々もこういう会議の場に来て発言ができる、人的な資源だと思っんですね、そういったものが有効活用できる。

立川に行くとき若い人からお年寄りまで、みんないろんな場面で見かけるよねと、歩いているのを見かけるのではなくて、そういう活動をしているのを見かけるよねというような市であるといいのかなと思います。

あとは、立川市自体がスマート自治体と、先ほど出ていた表現で、そういうものを目指しているのか、見ていると外部委託という一番費用がかかるものに、それまで地域が担っていたものを外部委託に回す。そこで数千万とかという話を聞くと、そういうところの見直し、そういうのは先ほど冒頭にも言いました、人的資源の有効活用というところの必要があるのかなという気がいたします。

特徴として、そういうものが目指す先なのではないのかなと思います。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では大塚委員、よろしくお願いいたします。

(大塚委員)

本市の特徴というところで、今ここに幾つか箇条書きで出されています、この交通結節

点、また昼間人口、また産業、農業、先ほど田所委員が言われているようなところも、非常に特徴なのかなと思っています。

立川は立川駅だけではなくて、北部のほうにも農業、いろんな形での産業なり、ものがありますけれども、一旦は立川の駅周辺ということで、人がたくさん、企業の方々もいらっしやいますので、他の地域では見られない、この多摩地域では立川とあと武蔵野だけなんですけれども、昼間の人口のほうが非常に多いという、ここがにぎわいというところで、特に平日もそうですし、休日も多くの方が立川に訪れてくださっています。

また、駅周辺から少し離れていきますと、特に北部の地域では、農業が盛んになっている。立川、これまでウドというところと言われていたんですけれども、なかなかウドというのは知名度といいますか、お話がないんですけれども、実はブロッコリーが、都内の生産量1位になっていますよと。そんなところもアピールして、それも特徴なのかなというところもあります。

この産業と自然を一緒に兼ね備えている、今、10年前につくってきた計画が、やはりにぎわいと安らぎというところがあるんですけれども、自然もあってにぎわいもあるというのは、過去もそうですし、これから先もそういったまちであり続けていくというのは、1つの魅力なのかなとは思っています。

にぎわっている、それは自分達が知っているからこそわかるんですけれども、やはり多くの方に知ってもらうためのアピールといいますか、プロモーションといいますか、そういったことをしっかり取り組んでいかないと、やはり人も集まってきてもらえませんが、多くの人に来てもらいたいということがありますので、そういう特徴をどういろんな方にアピールしていくのかというところは、非常に取り組んでいかなければいけない、今後10年間に取り組むべきところなのかなと感じています。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは長井委員、お願いいたします。

(長井委員)

そうですね、立川市自体はもう既に、例えば国営昭和記念公園でしたり、民間の商業施設でしたり、かなりいろいろ知名度のある、特徴のあるまちではあるんですけれども。ただ、そういう人たちを少しでもまちにお金を落としてもらう、商業的な立場からいけば、まちにお金を落としてもらう、それが税収増につながっていく。

それをするためには、どうしたらいいのかなと考えますと、商業のほうからしますと、農業のほうとも産業の分野では農商連携、現在もう既に始めておりますので、今のブロッコリーしかり、新しく創造してブランド化していくようなブランディングみたいなものというのは、今後も必要なのかなと。そういうものを買っていただく、あるいは使っていただくことによって内部循環が生まれていく、あるいは外からの方も、そこに目が行っていく。少しでも多くの方に来ていただくことによって、その昼間人口、確かに多いのは多いんですけれども、多いだけでそのまま終わってしまう。

先日、商工会議所がアンケートを取ったんですけれども、公園なんかでもやはり通過していくだけ、公園には来るけれども、じゃあそこでまちのほうに来てくれるのかというと、そのまま帰っちゃうという方も結構いらっしやるので、そういう方も含めてまちで少しお買い物をしていただく、そういうことによってまちのにぎわいを出していく。で、そうす

ることによって、余計立川を知っていただけるのかなと思いながら、まあ現状、農業のほうも立川印というのもやっていますので、そういうものも広めていきながら、少しでも多くの方に知っていただくというのが大事なのかなとは思っております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは西内委員、お願いいたします。

(西内委員)

立川市の魅力としては、私は国営昭和記念公園だと思っているので、ぜひ交通結節点の利点を生かして、観光地としての魅力を増していただきたいなと思っています。

今日、たまたま横浜市から引越して来られたという方と少し話したんですけども、横浜市から引越して来られた方でも、やはり立川市はすごく住みやすいそうですので、国営昭和記念公園すごくよかったと、週に1回は通っていると。道路も広くて歩きやすいと、横浜と比べても歩きやすいということでしたので、ぜひ観光地としても上手くできているんじゃないかと思います。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

宮本です。私、先ほど立川では、在勤、在学、そうした市民が特徴であると、そういう話をしましたが、もう少し言わせていただくと、立川は交流人口が多いんですね。交流人口、つまり買い物に来るとか遊びに来る、もう言うまでもないですが、国営昭和記念公園に来る、飲みに来る、ギャンブルに来る、そして巨大な宗教団体に来る、立川には本当に人が集まってくる。これは最大の特徴だと思っています。

この交流人口をいかに関係人口に切り替えていくかということが大事だと思います。関係人口、いろんな定義があると思いますが、ここではリピーターだったり、ファンだとか、それから愛着を持っている。これを関係人口とするならば、立川に住んでいないけれども、立川を自分のライフスタイルの活躍の場だと捉えるような方々は、もう既にいるだろうと。こういう方々をうまく取り込んでいくことが、私は立川の強みを生かすことなのではないかと思っています。そうした施策をする必要があるのではないかと思います。

三浦朱門が書いた小説の『武蔵野インディアン』に描かれているような土地柄、よそ者を排除しないという、そうした伝統的な土地柄が立川にはありますから、そうしたよそ者の力を吸収して、立川に行って一旗揚げようというような人達、上手く御一緒していくということが大事なんだろうと思いますので、そうした取り組みをしていくのが立川の強み、特徴を生かすところと思っています。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では森林委員、お願いします。

(森林委員)

森林です。先ほども申し上げたんですけども、やっぱり稼ぐまちにしていきたいとい

うがあるので、宮本委員がおっしゃったように関係人口を増やして、人が集まるまちにしていきたいというのがあります。

立川自体は、やっぱり産業と自然が共存しているまちだなと思っていて、そこをやっばり伸ばしていくのが必要かなと思います。

産業というのは、今東京都創業支援施設が立川にできていますし、その起業というのは、結構立川のキーワードになってくるかなというのがあります。なので、ありものの企業さんだけではなくて、創業する人をいかに増やしていくか、そして立川という立地を生かして、産学官民連携をし、広域連携をし、シリコンバレーとまでは行きませんが、何かしらイノベーションラボ的なものをつくって、何か創業、立川の産業のシンボル創業みたいな形で産業を盛り上げる。そして自然のほうは、やっぱり先ほど多摩川の河川敷、あちらを使って何かレジャーだったり、人を呼び込むような仕掛けをつくっていくのがいいんじゃないかなと思います。

あとは砂川のほうの農業とかというように、うまく産業と自然を共存させて、立川らしいイノベーションを起こしていくというのがいいのかなと、私は考えております。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは片岡委員、よろしくお願いいたします。

(片岡委員)

片岡です。駅前のにぎやかさ、もっとにぎやかにするべきだと思いますし、またそのためにはイベントとかコンサートとか、何かもっと自由に、安く借りてできるような事はいいと思いますし。

今ちょっと思いついたのは、大学の誘致とか、あるいはスポーツ系。

農業のほうも、河川敷とか話がありましたけれども、そういう農業の方、農業体験みたいなそういうことができたりしてもいいかなと。国営昭和記念公園ももっと安く入れるとか、入る方も増えるのではないかなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では甲野委員、よろしくお願いいたします。

(甲野委員)

甲野です、よろしくお願いいたします。

本市の特徴として、どのような価値という、今まで駅前ですとか、価値ということで、福永委員がおっしゃっていましたが、ちょっと人的資源ということで着目を見ると、このような種々のバックグラウンドを持った方が夜遅くに議論しているということ自体が、私は人的資源があるのかなと。

ちょっと問題があるのが、我々が今議論しているのは、いわゆるこの同世代、世代内の公平性というやつですね、私ちょっと年も違って、同じ世代内と言えるかどうかかわからないですけども、こういう場で意見を言えるということでは世代内ですね、それぞれの主義、主張を公平性を保つために議論して行って、よりよいまちをつくっていくということは、これいいんですが、やはりこれから大切なのは、別に世代内じゃなくて世代間ですよ

ね。10年ですよ、10年。20歳の人が30歳になる、30代がもう主力ですよ。

そう考えると、やっぱり若者参加が実は非常に重要ですよ。若者参加のワークショップ、今回やっていただきました。

今回傍聴席に若い方が2人も今日いらっしやっている、すごいですよね。その方が、そこに座っていること自体が実は問題じゃないかなと、僕は思っています。その方たちに意見を言ってほしいんですけども、ルールなので意見を言うことはできないと思うんですけども。やはり若者たちで、世代間の公平性を保って、それをどんどん取り入れていくことこそが、新たな価値なんじゃないかと。

若者は今すごい気候変動とか、私の分野では非常に活動的です。そういったところのワークショップでコミュニティをつくって、世界的に発信をしたいんですけども、言われたのは、立川には発言するところがないと。1人でやっても、何か冷たい目で見て終わってしまうので、ぜひそういう仲間を増やして行って、常に恒常的にそういった会議を開いてほしいと。仲間をつくって、発信していきたいという意見があるんですよ。

ですから、そういったところを取り入れて、常につくり上げていくのが、私は新しい価値だと思います。

多様な世代が常にかうワイワイガヤガヤとにぎわっていて、それを市民、行政の方も今までどおり支えていくという、まさに、またさっきの協働とか連携とかへ戻っていくんですけども、そういったものが新たな価値になるんじゃないかなと思います。

若者の意見がすばらしいなと思ったのは、市民ワークショップB班大学生がつくった、先ほどの宮本委員とかおっしゃった交流人口を増やす、立川でしか体験できないイベントって、これすごいいいと思うんですよ。ですから、立川の特殊性を生かして、農業であったりとか、まあ自然体験も入っています、文化体験も入っています、それらで実はこんなことができるんだと、僕ら立川でしか体験できないんだよねと。それを複合的にあわせることで、立川の魅力というのが2乗、3乗にもなるんだみたいなことをおっしゃって。これはすごいいいアイデアだなと思いました。こういうのは、やっぱり若者は考えているので、どんどん取り入れていくということが、若者の価値観になるんじゃないかなと思います。

以上です。ありがとうございました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは篠原委員、お願いします。

(篠原委員)

価値っていうのはバリューということで、バリューというのは、うちの会社もお客様に価値を提供することが仕事であるというようなことで、価値が提供できなければ、そこは撤退すべしというようなことを思い出しました。

やっぱり行政のいうバリューというのは、市民ワークショップでも様々出てきたように、何かを押し上げて、何かを切り捨てるということではないんですね。全てすばらしい価値があって、それをどう生かしていくかということの視点で考えるべきだと思いますので、それらの価値の新たな価値を生み出すためには、いっぱいある価値の連携というか、取り合わせというか、そういったものを考えていくべきではないかなと思います。

例えば俳句で成功する、取り合わせってあるんですね、取り合わせ、成功する俳句とい

うのは、一番ありそうもない連携、取り合わせ、このAとBというのは普通考えたらとても結びつかないのに、この五七五の中に入ると実はびたっと決まる。これがすごい名作と言われています。

だから、そういった形を、考えつかなかったような価値と価値を2つ取り合わせることによって、それが新しい価値、作品として新しい命が出てくる。まあそういうものを目指していただきたいなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では辻本委員、よろしくお願いいたします。

(辻本委員)

立川の特徴と言われたときに、自分の身近なところでいうと、裁判所があるんですね。東京都の支部は立川市にしかないの、裁判所見学とか、子どもたちとか、ちょっと興味を持ったりするんです、そういうので人が来たりしないだろうかなとか。拘置所がある場所も珍しいよねとか。時々、拘置所でも販促など、イベントがあったりするので、多少外から人が来るかしらと思ったりする。

あとは陸上自衛隊の基地があるので、あそこの航空隊とかのイベントで、結構人が来るのかなというのは、行ったことがあるので。

いろんな国の施設が多いというところで、そういうところを魅力にして、人を呼べないかなというのも、1つ考えていけば。

あと、皆さんのよく出てくる農業の話で、私は行ったことはないんですけども、高島屋の上に農業体験がある施設ができたんですね。砂川地区まで行かずとも、駅の近くのところで体験をして、もっと本格的なものが体験したければ砂川のほうへ行ってみるとか、そういうふうにな人の流れをつくることもできるのかなと思ったりします。

あと、この間の市民ワークショップの中でも話が出たんですけども、ドラマとかの撮影地が結構多いんですよ。そういうところをアピールして、聖地巡礼とかで人を呼んだら、人が来るんじゃないか、人の流れができるんじゃないかとか。漫画とかアニメの部分でも人の流れをつくるというところで、もっとアピールしたらいいのかなとか。

いろんな催しもの、いろんな魅力がある。人の流れをつくって、お金を落とすというところでは、いろんなイベントをどんどんアピールして、人が来てくれる魅力的なまちなんだよというところを、アピールできていったらいいなと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは松浦先生、お願いします。

(松浦副会長)

皆さんがおっしゃるとおりだと思います。

どのような価値を新たにつくり出していくかというところに関して、個々に関しては、ある意味ベタなんですけれども、行政がつくり出す価値って、基本としては安心、安全であって、そういった線を通すことによって、今までされていた議論がわりとすっきりするのかなと思います。

例えば、子どもの貧困とか教育というのは、やっぱり子育ての安心ということになりますし、例えば、高齢者の安心、安全とか、要は単身高齢者が増えてくるというところに関

しても、そういったところのサポートを安心して高齢者にも住むことができるという形。例えば、防犯に関してはまさに安心、安全です。健康もそうですね、健康寿命を伸ばしていくというのは、やっぱり安心、安全ということですし。インフラというのは、まさに安心に関係するわけで。まあ感染症もそのとおりでありまして。

今まで最近においては、基本は安心、安全であって、やっぱり行政って基本的にはそこがベースになってくるのかなというふうに思いました。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。様々な貴重な意見をありがとうございます。

(渡貫企画政策課長)

1つ。今日欠席の委員からのちょっと意見を紹介させてもらって。

(朝日会長)

よろしくお願いします。

(渡貫企画政策課長)

今日、欠席の川口委員、商工会議所のほうからなんですけれども、商工会議所のほうでつくっている「立川商工会議所2023ビジョン」の資料の提供がありましたので、ちょっとその内容をお伝えします。

商工会議所としての立川の魅力として、今まであった交通結節点とか、立川に人を呼び込む都市環境が非常に整いつつあるというような状況を踏まえて、立川の将来ビジョンというのをつくっているということなんです。

その内容は、「ミライをつなぎ立ち上げるInnovation Farm TACHIKAWA」ということを、将来ビジョンとして掲げています。Innovation Farm TACHIKAWAとは、立川を中心とする広域都市圏において、イノベーションが次々と生まれる肥沃な生態系、イノベーションエコシステムが実現している姿を表現した言葉ということで、こちらを商工会議所としての将来像として設定しています。

「中小企業も、大企業も、大学も、行政機関も、中間組織も、フリーランスも、学生も、シニアも。立川に関わる全ての方がより豊かな創造力を発揮し、新たな価値を社会に生み出し続けていくために、立川商工会議所は、望ましいエコシステムの在り方をデザインし、関係各所と密接な連携を図りながらその実現のための環境整備を行っていきます。そして、立川広域都市圏の経済を将来にわたり持続的に発展させていきます。」

こういった紹介でございましたので、一旦御報告をさせていただきます。以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

もともと交通結節点で昼間人口、産業、農業などというふうに書いていただいたところで、やはり皆様が書いているのが、農業と産業、商業だったり、にぎわいと農業、自然の河川敷なんかも含めて、そこがそういった資源もある。

あと、交通結節点のところに関係しますけれども、拠点性があるので、国の施設があったりとか、国営昭和記念公園があったりとか、そういったその拠点性に基づく資源も、地域資源は十分あるんだと。そこを、どのように組み合わせていくかというお話、組み合わせる価値を生み出していくかというところは、まだまだポテンシャルがあるという趣旨の御発言が多かったように思います。

それによって目指すところは、商工会のほうからもありましたように、稼ぐという言葉なんかからもありましたように、経済的な意味の価値というところもありますし、それとともに、条件として、シビックプライド（地域への誇りと愛着）的なもの、立川の特徴を生かしての愛着であったりというところがありました。

そこで、一番特徴的だったのが人ですね、ここに昼間人口というふうに1つあるんですけども、住民、在学、在勤、交流人口、関係人口という言葉を使っていたいただきましたけれども、あと若者ですね、世代間の話で若者の話も出てきて、人の担い手、あるいは来ていただく方、それを関わっていただく方という形で人の解像度を高めていくということが、1つの大きなポイントとして挙げられたような気がいたします。

そういった形で地域力、市民力、ブランドといった形の特徴、価値をつくり出していくといった御発言だったかなと思います。

それでは、次に移らせていただきたいと思います。

③がまちづくり理念というお話になります。先ほど、最初に事務局のほうからお話がありましたとおり、この③はちょっと①、②と少し毛色が違う感じもしまして、①の基幹サービスと、②の立川の特徴の土台となる部分ということで、まちづくり理念ということも挙げています。

ここで議論したその重視すべき考え方が、将来像をつくる上でも重視すべき考え方になるということで、理念というところがちょっと難しい、抽象的で難しい感じもするんですけども、ここの例に挙げていただきましたように、多様性、連携、協働をあるいは、最初にお話がありましたそれを支えるコンプライアンスということもあるかと思いますが、立川市にどんな状況が今あって、今後はどんな理念とか考え方がまちづくりに必要となるということについて、御意見をいただければと思います。

①も②も、もう既に連携という言葉が最初から出ていまして、もうここはまず、まちづくり理念の間違いなく1つになるところなんだなと思うんですけども、まちづくりを行っていく上での理念として重視すべきことということで、改めて御意見をいただければと思います。

それでは、田所委員からお願いいたします。

(田所委員)

今まで出ていた中身でいうと、常にいろんな世代の意見がちゃんと吸い上げられるような仕組みが1つ必要なのかなと思うのと。

もう1つは、財政の問題なんですけれども、例えば防災の話になりますけれども、防災って、地域のまちだけじゃなくてそのエリア、1つ隣同士でも違ってくる状況って出てくると思うんですね、川がそばであるかないかだけです。

行政がこうやりなさいみたいなことで任されているものだけでは、防災は絶対できないし、そこに住んでいる人間がちゃんと仕組みとして参画して、かつ不断に訓練を繰り返しその防災訓練を地域としてやる、そんなような進め方がないと、これから具体的に何かが起こったときに、目が届かない部分があると思うんです。

そういう意味でいうと、行政と住民とが、1つのテーマがあったとしたら、違う考え方だけでも吸い上げられて、弾力性かつ柔軟な対応が必要なのかなと思っております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

ここで書かれているコンプライアンスというのは、当たり前の話だと思うのですね。わざわざ取り組まなくてもということがあると思うんですけども。

連携、協働に関してが、やっぱり今までたくさんお話が出ていますけれども、弱い者を置き去りにしないという根底の考え方があるんですね。広くそういうふうに解釈したほうがいいのかと思います。

あと多様性については、多様性が理念としてどうなのかというと、よく分からないんですけども、おそらく多様性を受け入れるということが理念なんだろうと思うんですけども。そのとき、多様性ってまたいろんな考え方があって、個性を多様性と呼ぶのか、それから能力の広さを多様性と呼ぶのか、それから人種も呼ぶのかということがあるんですけども。これは、非常に注意が必要なのはやっぱり人種だと思うんですね。今まで、違う人種を受け入れたがために、ひと騒動起きている地域が幾つかあるかと思うんですが、そういったことは注意をしつつ、日本の慣習に従っていただけるのであれば、ある程度受け入れましょうという考え方が、私は必要だと思っています。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

福永です。理念というと、何かすごく重たい感じがするんですけども、先ほど来、ちょっとお話ししている中で、やっぱり②とも関わってくるんですけども、立川というのは商業圏と農業圏がもう本当にまちに隣接している。いろいろと商業性を中心に話をすると、農業のイベント化的なお話にもなってくるかと思うんですけども、農業というのはそういうものじゃないので、要は食に通じる、食の中心になる。

ですから、前のパネルのところもちょっと今見てたんですけども、地産地消であり、立川にみの一れが、街道筋のほうにありますけれども、いわゆる直売所ですよ、地元の農家の方がつくられたものをそこに持ち込む。駅そばにはないですよ。商業圏を発展させるイベントをいろいろやるというのも1つですけども、食としてのやっぱり農業圏としての考え方は、大事にしておいたほうがいいのではないかなと思います。

先ほど来お話ししているように、やっぱり地域とか市民力、多様性という言葉が出てきていますけれども、こういうものを書くときって、絶対に定義が必要なんですね。行政のほうで、こういう文章をつくられたときに、じゃあ多様性は何を言っているの、連携は何を言っているのというのが、非常に曖昧な中で今話をまとめなきゃいけないんですが、非常にづらいところではあります。

その中で、やはり市民力って、今日目からうろこのような定義をお聞きしましたので、それがもうつながっていたその地域の中でも。中央大学とか立教大学の社会科学の中では、ゼミで若者たちが、いわゆる団地経営の仕方を見にきたり、地域のボランティアのやり方を実地で学びにきたり、いろんな形でこれ、産学とは言いませんけれども、そういうふう

な動きもあるということは、なかなか発表する機会もないですし、何か大学の発表会で全部そういうものをパネラーとして、その地域から行って説明をしたりとか、そういう活動もやってはいるんですね。

そういったところも、やっぱり広くアナウンスしながら、自治会経営のあり方とか、そういう問題点も全部、全国レベルである方は講演会行ったりとか、そういうこともやっている。

ただ、それは、どちらかという、実践的な方法のお話が多くはなってくるわけなんですけれども、そういうものも広く、やはりアナウンスしていく必要があるのかなと思います。

ですから、もとに戻ると、まちづくり、理念として考えた場合には、立川の特殊性であるこの商業圏、農業圏が隣接しているということのを最大限に使っていけないものではないのかなと思います。都市型農業の典型的な場所だと思いますし、それをイベント化というふうには考えないでほしいなど、農家手伝いに行ったりはしますので、本気でやっていますから、みんな。それはそういう意味では、そこにじゃあ見学者が行ったりというのは難しい。畑の中には入ってほしくない。そういうのが農家の方の考え方です。これは当たり前なんですね。

そんなところですよ。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは大塚委員、お願いいたします。

(大塚委員)

まちづくりを行っている上で理念、何を重視すべきかという、先ほどまで皆さんいろいろお話をされてきている中では、やっぱり人、市民とかいろいろありましたけれども、人という、この資料の2のこの三角のところありますが、やはり理念って書いてあるところは、やっぱり人で支えながら、いろんなものをこれから打ち出していかないと、考えていけないといけないのかなと、人のつながりといいますか、そういったものが一番重要なのかなとは思っています。

市民ワークショップ、今日配られた資料ですけれども、ここはずっと私も皆さんと一緒に参加して見てくる中では、やはりこれからどういった将来像で行きますかというときに、「誰もが」とか、「共に」、「つながる」というような、そういったキーワードをたくさん皆さんお話しされていました。

多分、そういったところをこれから10年というところを見て、人と人、それは市民と市民であったり、市民と団体であったり、企業であったり、企業と企業であったり、いろいろなところがつながりながら、いろんな課題に対して解決していくといえますか、やはり行政だけではなくて、いろんな方がつながっていいまちになっていくのかなとは思っています。そういったところが重要なのかなという。

ただ、人と人、なかなかつなげると、どういったところを支援していけばいいのか、まただんだん地域というところが少し薄れてきているというようなことも言われていますので、どういったところを支援をしていくなり、つなげていくのかというのは、非常に重要なのかなと。

あと、やっぱりこれから未来というところで、だんだん税収が減っていく、人口も減っ

ていくマイナスのイメージばかりではなくて、やはり成長があったり、発展があって、未来があるというようなところも打ち出していく、そこも重要なのかなとは考えています。

以上、そんなところでございます。ありがとうございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では長井委員、よろしくお願いいたします。

(長井委員)

そうですね、いろいろ考えていたんですけれども、理念とか考え方なので、なるべく簡単な言葉で言えるのがいいのかなとか思いながら、コンプライアンスというのは、先ほど別の委員がおっしゃっていましたが、まあ当たり前の話であって、こういうのは必要ないかなと、必要というか必要ないことはないんですけれども、もう当たり前であって。

多様性、連携、協働も当然していくべきだろうとは思いますが。単純に考えると、やはり結局、先ほどから出ています市民力とか、そういうことも大もとにあるのはきっとコミュニケーションなんだろうなという感じが受けたので、そういうところを重要、もう簡単に説明すればそういうあたりなのかなと思います。

人と人がつながっていけば、それが連携になり、協働になり、その中から新しいことで出てくる。で、こういう場で皆さんと触れ合って、いろんな意見を聞かせていただくと、多種多様な意見があるんだなというのがわかりますし、それもコミュニケーションがあつてこそです。

あと、いろんな会議、僕も出させてはいただいているんですけれども、そういう中でも、皆さんいろんな考え方がある、こことはまた全然違う考え方をお持ちの方もいらっしゃる。で、そういう方の意見もやはり重要な市民の意見だろうと思しますので、そういうところもつないでいくのは、やはり最終的には人の言葉であり、人の前でこうやって話ができるというのは、非常に大事だと思いますので、なるべくこういう理念とかというのは難しく書くよりは、簡単なほうがいいと思っていますので、少しそういうコミュニケーション力というんですかね、そういうところを少し出させていただければいいかなと思います。よろしくお願いいたします。

(朝日会長)

ありがとうございます。

西内委員、よろしくお願いいたします。

(西内委員)

私も難しいことは少しちょっと言えないんですけれども、やはり理念といえますか、これから残っていくものは、若者や子どもだと思いますので、そういう子どもとかの目線に立って、まちづくりを行っていくという考え方を持っていたほうがいいかと思います。

若者が魅力を感じるまちづくりが、私はやはり大事だと思っていて、それが担い手の問題なんです。若い人のプロモーション力ってすごいと思いますので、若い人が感じたことが結構すごい、SNSとかの力ってすごいので、少しでもやっぱり不満とか、すごい広まっていくので、どうしても若い人の目線に立ってつくっていかないと、いけないのかなと思います。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

では宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

私は、先ほど来申し上げている話の延長上になるので、繰り返しになるので申し上げますが、ここでもし言うならば、「様々な地域資源が協働できる市民力」という表現になるのかなと思います。進む市民に、あと押す行政、行政がそれを支援していくぐらいのスタンスでもいいんじゃないかなと思いました。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

森林委員、続いてお願いいたします。

(森林委員)

森林です。私は「包摂的成長を目指す」というのがいいかなと思います。というのも、やっぱりまちづくりって人が行くものなので、やはり人がいかに幸せに暮らしていけるか、そしてまちを成長させていくかといったところの考えが必要かなと思っています。

やっぱり、地方から若い女性がいなくなってしまうというのは、やっぱり地域の寛容性がないところ、もちろん仕事がないからというのもあるんですけども、やっぱり地域の寛容性がないといったところで暮らしにくいところもあるので、いかにその地域の寛容さを広げていくかというのが大事なかなと思っています。

今、立川はそうではないと思うんですけども、でも細かいところで、外国人が住みやすいの？ 障害者は住みやすいの？ とか、LGBTQ+の人は住みやすいの？ とかっていう細かく見ていくと、なかなかやっぱり寛容性というのは立川、保守的なまちだと思うので、まだまだ足りないかなと思うので、主として「包摂的成長を目指す市」というのを打ち出していければ、誰一人取り残さずまちも成長していけるというふうな考え方になるのではないかなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

理念ですね、一言ではなかなか難しいんですけども、「みんなで支え合う」、「誰一人残されない」、「ともに」理念というのは幾つか必要である、「にぎやかなまち」、あと健康づくりでも、健康づくりどうして快く過ごせる人がいると思うんですね。以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

甲野です、お願いします。

先ほど、田所委員が非常におもしろいというか、具体的事例をおっしゃっていただいて、感銘を受けていたんですけども。まちづくりって、やっぱり泥臭くて大変なんですよね、先ほどの避難訓練の話が非常におもしろかったなというのは、何度も何度も繰り返しやって、それでようやくその効果、もしかしたら効果があらわれない、まああらわれないほうがいいと思うんですけども、その日のために備えて、それこそが多分まちづくりですよ

ね。

そこには、田所委員がおっしゃったように参画ですよ、参加じゃなくて参画、要するに市民が責任を持って、参画というのがキーワードです。そこには市民としての責任感みたいなのが必要ですよ、多分。そして、そういうところに積極的に参加して、主体性を持つというのが多分キーワードになっていく。

何度も何度も言った、先ほども言いましたように、継続性というのが、もしかしたらキーワードとなっていくのかなと思います。

そういったことによって、何ができ上るのかというと、多分古くて新しく、新しく古いのかもしれないんですけども、やっぱりコミュニティ、今日多分一回もコミュニティって出てこなかったんですけども、東日本大震災から非常にキーワードとして有効です、コミュニティって非常に地縁的なコミュニティだと、先ほど女性がいなくなりましたという話は、要するに地方のコミュニティは非常に地縁的なものなので、そこを嫌がって出て行ってしまうと思うんです。

そのところに規範とかで縛りつけてしまうと、多分強制的コミュニティになってしまうので、やはり多くの若者たちをはじめとする市民の参加を促すのだったら、やっぱり都市ならではのコミュニティ、選択制的コミュニティですとか、機能的コミュニティとか、多分いろんな言い方があるかと思うんですけども、そういったものを打ち出していくことによって、これが理念になるかどうかは分からないんですけども、立川らしい、立川型、先ほどの2番、どのような価値に結びつくのかもしれないんですけども、立川らしい新しい価値のコミュニティみたいなをつくり上げることができるのではないかなと考えて、ちょっといろんなキーワードを入れましたけれども。以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは篠原委員、お願いいたします。

(篠原委員)

前回から、増えてくる外国人を含めまして、ただ孤立化してきている、今日の「立川市の不登校の現状について」のペーパーを見ても、やっぱり下のほうの原因、要因で見ますと、生きる不安ですとか「親子の関わり方」とか、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」みたいな、どうしてもだんだん分散化していく、孤立化していく人というのがいて、そこを逆に遮るためには、やっぱり絆とか連帯とか、そういったものが要るのではないかなと思います。

ふだん、絆というと非常にいいんですけども、堅苦しい昔ながらの絆だと、やっぱり結果逃れたい、家族も1つのそうなのかもしれないんですが、そこが難しくて。緩やかな絆といいますか、非常にみんなが、その人にとって言い方が悪いんですけども、都合のいいというのを認めてあげるところですね。それで自由につながれるというところを、ストレスなく不安なくつながれるようなところの社会といったものを、つくっていく必要があるのかなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは辻本委員、お願いいたします。

(辻本委員)

皆様のいろいろなお話を伺っていて、非常にいい意見だなと思いながらお話を伺っていたんですが、特に、長井委員のお話にあったコミュニケーションという単語をキーワードにというのが、すごくいいなと私は思いながら伺っていました。

コミュニケーションを取るというところに、やっぱり多様な意見を認め合う姿勢というのが必要なんだろうなと思ひまして、世代間ギャップみたいなのところの世代間でも違いがあるでしょうし、平澤委員が挙げていらした多様性というところで、個性が違う、人種が違う、能力が違うというところで、それぞれの多様性が出てくることもあるでしょうというお話がありましたけれども、そういったそれぞれにいろんな意見があるところをお互いに認め合いながら、コミュニケーションと連携を取っていくということは、非常に重要なことだなと思ひますし、これからの都市の、立川市のあり方というのを考えていく上では重要なキーワードなのかなと思ひながら、話を伺っていました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

では松浦委員、お願いいたします。

(松浦副会長)

それぞれの意見がすごく納得で、例えば若者、子どもへの視点とか、包摂的成長とか、責任感、絆、コミュニケーションというところで。じゃあ何か、また何か共通のことがないかなと思ひながら、なかなか難しいなと思ひたんですけれども。

1つ、例えば未来への責任ということとか、持続可能でということ、そうすると、やっぱり自分たちの世代だけではなくて次の世代のことを考える。これもある種の、一種のコミュニケーションでありますし。ということで、次の世代、若者、子どもへの視点ということにもなり得る。

もちろん、これって財政との関係もありまして、将来的にきちんと持続可能にインフラなんかも全て保障していくと。そのためには、今ちょっと使い過ぎるとかということなく、未来を考えながら、インフラもそうですし、社会保障もそうですし、考えていくという意味で、何か共通点として持続可能性とか、未来への責任というのがあるのかなと思ひました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

小林委員、お願いいたします。

(小林委員)

本当に皆さんのお話を伺って、どれも本当に大事だなと思いながら、本当どれも大事なので、地域愛とか、そういった大人になって戻ってきたくなるようなまちというんですかね、そういったことでみんなで参加できるというところが、やっぱり地域愛になるのかなんていう気がしました。

あとは、皆さんでこうやっているという内容を、いかに知ってもらおうかということが一番大事なかなというのを思っていて、発信力じゃないですけども、そういった理念というのをそういうふうに今感じています。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

たくさんのキーワードをいただきまして、この多様性、連携、協働はもう当然だと、当然ここで重視すべきものとして、それを支えるためというか、それを実現していくためのいろいろな理念をいただいたということになるかと思います。コンプライアンスもさらに当たり前ということなんですけれども。

多くいただいたのは、やはり多様性とか連携を支えるのは包摂性ですね、誰も取り残さないということと、コンフリクト(対立・衝突)も当然あるわけで、そのコミュニケーションの重要性というところを、やはりあったかと思います。

そのためには、いろいろなキーワードがあったんですけども、寛容性、あるいは弾力性があるとか、継続性があるとか、そういったところですね、たくさん魅力的な話題、用語がありました。

あともう1つは、わりと連携とかいうと水平的なイメージがあるんですけども、結構いただいたのが時間軸の話ですね、若者を今水平の中での若者というところもありますし、未来につながるという意味での未来、持続可能という、成長とか、そういった意味での時間軸でのキーワードも多くいただきました。そのようなところだったかなと思います。

3 政策面から見た都市像に生かす視点

(朝日会長)

そうしたら、2つ目、議題の2について、政策分野から見た都市像に生かす視点ということで、ここについての事務局からの説明をお願いして、時間的に少しちょっと限界があるかもしれないんですけども、少しいただければと思います。

それでは、御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こちら資料の3になります。今の御議論を少し将来像から、大きな視点からの抽象的な御議論を中心に行っていただきました。資料の3は、政策分野ごとにこれまで第1回から第3回、または市民ワークショップ等御意見を踏まえた中で、分野ごとに今行政が考えている政策分野ごとに、ワードを拾った場合については、こういったワードがこれまでの審議会でも出てきたとか、長期総合計画の総括からも出てきているものを、資料の1ページでありますと、【子ども・子育て】分野ということで、1番上の囲みの太枠の中に掲げてございます。

なので、この太枠以外のところで、少しちょっと粒度が細かいものもあるのですが、その分野からこういったワードが必要ではないかといったことを、御意見をいただきたいと思っています。

3ページ目が【教育】分野のワードをこちら散りばめてございます。

5ページ目は【環境】分野、そして7ページが【市民生活(くらし)】分野。10ページ目が【都市基盤】分野。11ページが【産業・都市計画】分野。14ページが【文化・スポーツ】分野。15ページが【地域福祉】の分野。17ページが【健康・医療】の分野。19ページが【行政経営(政策推進)】の分野。21ページが【行政経営(管理運営)】の分野。22ページが【行政経営(財務)】の分野ということで、一旦これまで出てきたものを、事務局である程度、ワードを散りばめてございますので、そのまま各分野でこういった文言を載せていくべき

ではないかといったようなことを、御意見いただきたいと思っております。

時間も限られていますので、もし時間がない場合については、また別途、メール等でいただくというのもよろしいかと思っておりますので、時間の限りそういったところで御議論をお願いいたします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございました。

これ、都市像のこれまで出てきたキーワードを整理いただいたという位置づけになりまして、これが分野ごとに都市像となっていくときに、このキーワードはちょっと抜けているんじゃないかとかいうところを見ていく。

今、お話ありましたが、ちょっと時間に限界がありまして、これをぱっと見ていただくのはなかなか難しいので、少し事務局のほうでお困りの分野といいますかについて、今日いただいて、まずはここでいただければと思います。

(平澤委員)

1点質問があるんですけども。今まで第5次の審議会を進めてきた中で、その分野って何か5つの分野だったと思うんですが、今回ちょっと細かく分かれて12の分野になっているんですけども、何か意味があるんですか。

(渡貫企画政策課長)

これまで第4次では、都市像ということでは5つの政策分野とっていましたが、その政策の中も、今回は子ども、学び、文化という、子どもと学び、まあ一緒といえば一緒なのかもしれない、もう少し切り分けた中で、課題を抽出していったほうがいだろうということで、課題を抽出するに当たっては、一定のこの分野で御議論をしていただいたほうがよしいということで、させていただいております。

(平澤委員)

そうすると都市像は、この12の分野について都市像を挙げることになるんですか。

(渡貫企画政策課長)

いや、都市像はこの12全部というよりは、ある程度一定程度のまとまりの中で、親和性があったものをやっていったり、さっき言ったように基幹的サービスだけをまとめたものとか、市の特徴だけをまとめたものとか、意見だけをまとめたものとか、いろんなやり方があるんですけども、そちらについては都市像のつくり方については、また次回のところで一定程度お示しして、御議論していただきたいと思っております。

(朝日会長)

ありがとうございます、前提のところですね。それで、この皆さん見ていただいてわかるかと思うんですけども、キーワードが薄く、ちょっと少ない分野がありまして、そこが本当にそれでいいのかということもありまして、ちょっと今日この場では【都市基盤】の分野と、【文化・スポーツ】分野のところですね。あともう1つ、最後の【行政経営（管理運営）】のところも少ない分野ということになっているんですが、そのあたりを重点で見させていただいて、少しちょっと短い時間で挙げていただければと思います。

適宜必要だと思うこと、あるいはこれはどうなのかと思うところなど挙げていただければと思います。

どこからでも構いませんので、もしありましたらお願いいたします。

森林委員、お願いいたします。

(森林委員)

足りないところというわけではないんですけども、人権が抜けていると思うんですが、人権はどの分野に入るんですか。

(朝日会長)

ありがとうございます。

そこ、位置づけとしてはどうなるんですかね、大事な点かと思いますが。

(事務局)

7ページの【市民生活(くらし)】分野というところがあるんですが、こちらに例えばLGBTQ+、今までちょっと総合政策のところにも男女平等参画課があったものでしたので、行政のほうに入っていたんですが、どちらかという市民生活のほうの方が親和性が高いのではないかということで、今言ったちょっと人権の関わるここに入っているというところで、国籍に捉われない多様性だとかも、ここに入っている状況ですね。

(朝日会長)

ありがとうございました。

そうですね、そのように少しちょっと便宜的に、ここに入っているけれども、ここはこうあるべきという御意見もあるかと思います。そういったものも含めて、お願いできればと思います。

篠原委員、お願いいたします。

(篠原委員)

施設系がちょっと少ないようなんですよね、施設工事って、1つ前の統計で気になっていたのが、計画はちゃんと来ているんですけども、実現、アクションは無いんですよ。やっぱり計画100%でも、実際の実行はなかなか難しいというのが見えているので。そこはもっと進めるための何か施策が要ると思うんですが、デジタル系でいうと、やはりAI画像解析とか、あるいはセンター系、そういったものを使う、例えば施設更新、本当に必要なかどうなのかというのが、地下にあるものでも近いところがあるので、技術を活用しながら、本当にやるべきところをきちんとピンポイントでやっていくみたいなのところを、これから解決してやっていくのじゃないかなというのがあります。

(朝日会長)

ありがとうございます。施設に関するのと、そこにデジタル技術ところも関わってくるのでですね。はい、ありがとうございます。分野に関しては。

(篠原委員)

【都市基盤】分野、下水道施設更新ですね。【行政経営(管理運営)】分野、公共施設のところも。

(朝日会長)

なるほど、わかりました。ありがとうございます。

辻本委員、お願いいたします。

(辻本委員)

先ほど理念のお話の中で、当然の関係という、コンプライアンスの件なんですけど、これでもできれば政策の課題ですとか、政策分野のキーワードというところに入れていただいてもいいのかなと思ひまして。【行政経営(管理運営)】の分野に当たるのかなと思うんです

けれども、盛り込んでいただければと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。【行政経営（管理運営）】の分野ですね、はい。コンプライアンスですね。ありがとうございます。

甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

【環境】分野のところってたくさん出てくるんですけども、「森林保全」というのを加えていただきたくて、制度が改正されて、森林税だとか、これは市民がこれから税を払わなきゃいけないくて、それで都市でも使える。今までも譲与税という形で使えたんですけども、ですからより市民も払うということが、税金でございますので、そういうところからすると、「森林保全」というのは東京都民であったとしても、当然担っていく、責任を持っていかないといけない分野なので、「森林保全」入れていただきたいと思います。

あとは【都市基盤】分野のところなんですけれども、自然の中でも緑道と街路樹ですね、この街路樹、それが非常に過度に成長して、過剰に切られてしまっている。立川市のほうでも、多分同じような問題を抱えているかと思いますので、ただこれは自然的資源でございますので、むやみにやはり切るべきところと切らないところを選択しなければいけないと思いますので、「街路樹の再生・更新」というようなところを入れていただければなと思っております。

以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。【環境】分野の「森林」、それから「街路樹再生」ですね。ありがとうございます。

宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

【地域福祉】分野、「緩やかな見守り」というようなキーワードが必要だと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。【地域福祉】分野で「緩やかな見守り」ということで。ありがとうございます。

辻本委員、お願いいたします。

(辻本委員)

市民ワークショップの中で、E班のところですけども、「街灯を増やしてほしい」、「まちを明るくしてほしい」という意見があって、子どもたちから出た意見で、「暗い道が治安が悪い、ちょっと怖いというお話があったので、そのあたりも入っていたらと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。歩道が狭いとかもありますしね、そういう歩行環境の照明ですね。ありがとうございます。

思い出したんですけども、自転車の話って、わりと市民ワークショップでも若い人の話ありましたね、自転車のために道路が狭いというような話もあったりしたので。ちょっと交通に入るのか分からないんですけども、「自転車」できればと思います。

宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

どこの分野に入るのか、ちょっとよくわからないんですが、先ほど主権者教育という話をしましたけれども、投票率の向上に向けての取組みたいなところについて、どこかであらうべきなんだろうと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。参画の一番基本のところですね。ここは先ほどの生活のところでしょうか。市民生活、暮らし分野に便宜的にちょっとなるかもしれませんが。

(事務局)

そうですね、ちょっと検討してみます。

(朝日会長)

片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

【教育】分野のところ、「食育」とか。

(朝日会長)

ありがとうございます。「食育」ですね、教育のところをお願いします。

(福永委員)

「緩やかなつながり」というのは、実際の地域のいろいろなことをやっている中で、今までの枠に、枠とか規制にかからないような緩やかな雰囲気をつくっていかないと、今の若い人、お母さんたちとか、そういう人の参加がなかなかできない。近所付き合いの中に入ったら、これをやってね、あれをやってねということばかりを言ってしまうと、難しいんだなというのを感じて、活動しております。「緩やかなつながり」というのが、いいことではないかなと。

(朝日会長)

わかりました。ありがとうございます。【地域福祉】分野のところにあるというお話でしたけれども、ちょっといろいろ関わってきますね、いろんな分野に関わってくるのかもしれない。

ありがとうございます。

それでは、たくさん出していただきましてありがとうございます。資料を見返していたでいて、ぜひ事務局宛てに追加でありましたらお願いできればと思うところです。

それでは、ここで議題2の政策分野から見た都市像に生かす視点の議論は、ちょっと暫定ですけども、終えたいと思います。どうもありがとうございました。

4 その他

(朝日会長)

それでは、最後に次第の3、その他について事務局からお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございました。

本日の議論を踏まえまして、事務局のほうで都市像の案などを策定いたしまして、次回の審議会で御議論いただきたいと思っております。

次回、第5回審議会は、令和6年4月8日月曜日の19時から、会場は同じく立川市役所2階209会議室で開催をいたします。

最終回となる第6回審議会は、令和6年5月13日月曜日の19時から、同じく立川市役所2階209会議室で開催いたしますので、御予定をお願いいたします。

事務局からは以上となります。

(朝日会長)

ありがとうございました。次回は年度明けなんですね。よろしくをお願いいたします。

先ほど、ちょっと時間切れになってしまった件については、事務局へ一旦メールをいただくような形でよろしいですかね。

(渡貫企画政策課長)

はい、大丈夫です。

(朝日会長)

よろしくをお願いいたします。

以上で本日の議事は終了しました。

第4回立川市長期総合計画審議会を閉会したいと思います。本日は御多用中のところ、本当にありがとうございました。

— 了 —